

作物に親しみ食を再発見する：  
大学の施設を活用した食農教育

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飛騨, 健一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7163">http://hdl.handle.net/10297/7163</a>

# 作物に親しみ食を再発見する

## —大学の施設を活用した食農教育—

技術教育講座 飛驒健一

### はじめに

近年の「食」の手軽さが児童生徒の食生活や生活習慣、ひいては精神や身体的発達に悪影響を及ぼしている可能性が指摘され、これに対して様々な経験を通じて食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践しうる人間を育てる「食育」の重要性が唱えられている。一方で都市化の進行等による農業生産と消費の間の溝、食材と加工についての関心の低下、食料自給率の低下などの問題もあり、また生産は環境問題とも深く関わるもので、農水省はこれら生産から消費に渡る複合的な問題に対して、生徒の関心を高め考える力を培うべく食農教育を推進している。

本プログラムは小学校の総合的学習の時間と教育学部の自然観察実習地を利用した食農教育で、生徒が食品として身近な作物の栽培に関わり、自ら収穫したものを食し、作業と講義を通じて、環境や栽培方法と作物の生長の関係や、それらが食卓に上るまでの過程に関心を深めることを期して計画した。なお昨年度は静岡県の食農学習ボランティア活用事業として実施した。

### 1. 実施内容

表1 実施日と作業内容

実施日	作業内容
H20 8/25	播種(当方のみの作業)
9/18	チンゲンサイ・カブ・キョウナ定植 ハクサイ・ブロッコリー鉢上げ
9/24	ダイコン播種, ハクサイ・ブロッコリー定植
10/22	稲刈り, チンゲンサイ収穫
10/28	カブ・キョウナ収穫, 除草と追肥
11/25	芋掘り, ハクサイ収穫
H21 1/13	脱穀精米, 芋きんとん食, ダイコン・ブロッコリー収穫
1/26	餅つきと試食, 桜島大根・ブロッコリー(側花蕾)収穫

月の餅つきまでの間、1 カ月以内の間隔でいずれかの種類が収穫できるようにした。

イネとサツマイモは教育学部の前期の授業(栽培実習基礎)などで作付けしたものを利用し、前者では稲刈り、脱穀精米、わらなわ編みと餅つきを、後者では芋掘りを体験させ、餅はそのまま、芋はふかして試食に供した。野菜はダイコン以外は当方で夏休み中にセルトレイに播種し、生徒は鉢上げ、定植、除草、追肥と収穫までの作業を行った。各種類一人2~4株で、収穫物の一部は通常調理して食する種類も含め、そのまま生食

静岡市立大谷小学校3年生徒62名の総合的学習の時間の授業として、表1に示す実施日と作業内容で毎回午前半日、実習地の圃場1面と講義室で実施した。作物は表1に示す早晚生の異なる野菜とイネ(糯)で、定植から1



図1 配付資料の例

して作物自体の食味を体感するようにし、残りは家庭に持ち帰らせた。

毎回の作業には数人の学生や院生に参加を求め、作業の補助や指導に当たらせた。また図1のような資料を配付して作業と作物観察の要点を説明し、作業や試食の間にも適宜説明や問いかけを行い、作物やこれを食べることへの生徒の理解や関心が深まるように注力した。毎回の終了後には10分程度の時間で簡単な感想文を書かせ、全体の終了後には小学校の授業の中で生徒の質問を担当の先生にまとめていただいた(表2)。



野菜の収穫状況(10/28)

## 2. 生徒の感想(藤井教授との共同実施であり、ここでは野菜に関するものをまとめる)

小学校3年生にはやや負荷の大きい作業や、要領を得るのに若干の試行錯誤を要する作業もあったが、感想文では、特に収穫の始まった3回目以降は、ほぼ全員が楽しさを表現していた。内容がそれだけで終わっている生徒も多かったが、2~4割の生徒は、講義等で注意を向けたことを作物に接して自ら確認したり、あるいは講義に関わらず独自の視点で発見したことを述べていた。定植など収穫以外の作業では、自らが従来は無意識に行っていた作業の意味を、講義と今回の作業を通じて理解し得たと記するものもあった。

野菜の試食では、通常は調理または調味して食する種類をそのまま生食することに対して、始めはややいぶかしげであったが、ハクサイやチンゲンサイの葉柄、ブロッコリーの茎など当方が指定した部位を食した際には、甘くて美味しいなどの声があがり、感想文でも好印象を表現するものが多かった。

回を追って積極的な内容が増加し、後半では次回への期待を示すものもあり、最終回では自分でも栽培したいとか、より多くの作物を知りたいなどの、発展的な感想も含まれていた。全体終了後の生徒からの野菜に関する質問には、食品としての野菜に関するものも多かった。全体的な印象としては、かなり多くの生徒が作物に対する親しみ、作物の栽培やこれを食べることに対する関心を増し、小学校3年の食農教育として十分に意義があったと判断される。

### 表2 子供たちからの野菜についての質問(大谷小まとめ)

- ・野菜の色にはどういう意味があるんですか。
- ・どうして小さいブロッコリーの苗があんなにふっくらとした野菜になるんですか。
- ・野菜の中で一番栄養のあるものは何ですか。
- ・私は、白菜が好きなんですが、白菜にはどんな栄養がありますか。
- ・育てるときに気をつけることは何ですか。
- ・一日にどの位水をあげればいいんですか。
- ・タネはどうやって日本に伝わってきたんですか。
- ・先生が好きな野菜は何ですか。
- ・先生はいつ野菜について詳しくなったんですか。
- ・大根やにんじんやかぶはどうして根っこが太るんですか。
- ・チンゲンサイ、水菜、ブロッコリーはどうやって食べれば美味しいですか。
- ・ブロッコリーはマヨネーズより、もっと美味しく食べる工夫はありますか。
- ・野菜にはどの位の種類がありますか。
- ・サツマイモの種類は、この前の種類以外にもあるんですか。

なお収穫に使用した包丁や鎌などの刃物の扱いに慣れていない生徒が多く、安全のためにも学生による補助や指導が必要であったが、これに限らず学生が作業の進行に指導力を発揮すべき場面があり、学生の教育実習としても有益であったと考えられる。